

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第110号 (2023. 3. 26-2023. 4. 2)

- ◆ 参加者：しまねこくん、石原とつき、奥かずみ、流天、萩原アオイ、とし、ヨダレウルフコマンン(飯)、まめのすけ、蔭一郎、茶碗酒一杯、何となく短歌、片羽まじ、雲雀、PROBE、さー、はゆき咲へら、かんの、星見冬夜、森川のと、西脇祥貴、元さん、おひたし中田、東ころ、海馬、Born Slippy(モンモン)、屑乃ハコ、弋定住佳、しろとも、石川聡、佐竹紫田、おかもとかも、上崎、風ちひろ、西沢葉火、のんのん、うめたかな、Rui sen、たろりずむ、海月漂、涼閑、すずしろゆき、みおうたかふみ、みさきゆう、お気楽草紙、こたろう、水の眼り、秋鹿町、もゆら、まつりへきん、どこにでもトア、小沢史、此糸むら咲、Longroot、とるぼーる、馬勝、雷(らじ)、霧島あきひ、高田祥聖(たかだ、しょうせい)、Tomoko、Take、Nichttrauerchen、鴨川ねぎ、さこ(砂狐)、岡村知昭、和泉明月子、まごも(まご)、森砂季、crazy lover、菊池洋勝、二葉らむ、hyautopia、突波、みくたん、カゲキ・ちやけぞう、nawo sivanai、せば、椋琴乃(あさがお)、tuno、在原涙、星野響、太代祐一、mie、ほたる、抹茶金魚、三角カド、むしみんママ、西井あつし、くらぼし、汐射ハルカ(波)、ゆりのはなこ、須賀善昭、ちゆんすけ、山田真佐明、おから村、宮坂愛哲、花野玖、一橋悠実、白田イチジク、月波与生(九七名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

なるべくはさくらを見ないようにする 蔭一郎
削っても削っても丸ゴシック体 上崎
濡れて帰る肉には肉のうつくしさ 西脇祥貴、
ノマドとも違う者らに囲まれる まめのすけ
零時よりブリキの馬によるレース 岡村知昭
階下の旅の消毒液のえくすたし 太代祐一

中指の先から毒の入る春夜 せば
地球儀に餌を与える長閑さよ しまねこくん
春雷が半音狂う始発駅 星野響
魚から見た草原に迷いこむ 蔭一郎
女子トイレマークと思いきや古墳 おひたし中田
先端に行けば行くほど春の雨 しまねこくん
願わくば階段葬にしてほしい 蔭一郎
顔半分 猫の座標がズレている 森砂季
正夢のすべてにリサイクルマーク 上崎
道徳の副読本でカレーパン 岡村知昭
バスに乗りバスから降りてくる蛙 しまねこくん
六回の表みたいなきターソロ たろりずむ
三月に食べ残されたわたしたち 蔭一郎
陽炎のなかに入って診てもらおう 蔭一郎
パンジーが向いてる方を答えなさい しまねこくん
振り返るたびぶらんこの揺れ止まる 蔭一郎
まんじゅうと背中を押してくれた風 まつりぺきん
黄昏にねるねるねをぶつける 秋鹿町
春北斗右投左打にして お気楽草紙
代走に出した蛙が干からびる しまねこくん
投票で選ばれてきた四月馬鹿 しまねこくん
ミクロなのに泣いていない 西沢葉火
その月は愛していないほうの月 東こころ
くちびるの震えは疾うにレトリック 海馬

ブランコの大波小波山呼んで 流天
慨世のエゴトリップが矩踰える ヨダレウルフコマソン
水トアナ “みと”と呼んでた一週間 茶碗酒一杯
万愚説悲しきほどに乱舞せり 片羽雲雀
万愚節知らない街が燃えている PERCHES
振り向けば パッチワークの サクラ色 かのん

ものの芽とモノノケは似て里の山 層乃ハコ
規制線の向こう側では恋人 しろとも
クラフアンの好意や銀漢にて厚き 石川聡
駄菓子屋に今日はマグマが並んでた おかもとかも
弔いの夢を見ている握り鮓 のんのん
桜トンネルこの世の非常口 Ryūsen
吐き出した暗闇の中溺れてる 海月漂
人生のゴールどこにも見えません 涼閑
弁当と闘う私弁当の行く先々で闘う家族 すぐしろゆき
冗談を言い合えるかな四月馬鹿 みおうたかふみ
英国のカップに浸す莖かな ことらう
葱坊主指輪にしては癖強し 水の眠り
刃渡りのながさの肉のぬくもりね 小沢史
残酷な童話の主役むつごらう 馬勝
安売りの八百屋で郷に従う 雷
キキママ&イイシラ 高田祥聖
右腕をドリルに改造してみたよ 鴨川ねぎ
癖のある廃線たどる図書委員 まつりぺきん
上野から下る列車に伊達メガネ さこ
春燈に失くしたものを教えられ 和泉明月子
所詮ね庶民の家計わからんよ crazy lover
今晚の主菜を絞める春早し 菊池洋勝
花冷への平らな町に息をする hyutoppa
日が落ちて誰が呼ぶやら夜泣き蕎麦 カゲキ・ちやげぞう
秘密なら基盤がすべて知つてゐる Nichtraucherchen
賑やかに咲いてさみしい桜はな ほたる
ゆかりりが散らす雪柳の性差 抹茶金魚
夏が来ても手と足は冷たいの むくみんママ
ばらばらになつて汚れみたい桜 シ西井あつし
何したつて思い出してしまふ臈 くらぼー
図書館で演説中のチャップリン まつりぺきん

左折して本町通り春の雲 須賀 善昭
たんぽぽや心隠して空を見る 和泉明月子
笑い声窪んだ日からずっと冬 ちゆんすけ
激務席辞めどき逸し瀕死席 山田真佐明
上弦の月の歪な唄い声 宮坂変哲
講堂の床きしむ音はるやすみ 花野玖
ぜんまいを干すあいみよんはみよんと呼ぶ 月波与生
滅亡の少し手前でする挿木 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

本棚に廃棄処分の札を貼る 愛を伝える儀式に見えた
mine

必要な分のマステを引き出して仔鹿の体を容赦なく切る
佐竹紫田

電話口明けない夜はないというZBの声だけ弾む ゆり
のはなこ

一筋のコントレイルは糸でんわ何も聞こえず空に消えたよ
星見冬夜

暗闇にバックブザーが鳴り響き夜しかできない引つ越しも
ある さー

君の歌ちゃんとコトバの味がする bean to bar の板子
ヨコみただ Okukasumi

「ご趣味は?」宇宙人に誘拐されることかな」…「まあ、ベ
テランだからね」 石原とつき

テーブルのアクリル板が半減しなんか照れるねしやべりに
くいね さー

そうかあなたはイグアナですかならばわたしはゲートルです
まめのすけ

よりよって年度の初日をエイプリルフルにしたやつ呼
んでこい 好き たろりずむ

エイプリルフルといえど自分には嘘をつけずにライス大
盛り たろりずむ

「会いたい」も「好き」も言わない関係に名前をつけない
という勇氣 萩原アオイ

「捕まえた」背に沁みる声 振り向くと誰もいなくて 懐
かしい風 とし

このあとで私の言う事忘れてねそして黙って私を忘れて
何となく短歌

包開け 色とりどりの お菓子たち どれにしますか ど
れにしようか はゆさく

世の中の全てが好きと沈丁花 アスファルトには本音を語
る 森川のと

泣き顔で見えない嫉妬笑い声嘘でかためたフィクションの
よう 元さん

悲しみや辛さのイデア諸共にウソで固めて虚数の箱へ ア
ルト

抜け出せば忘れてしまう過去だから噂話で語り継がれる
式定住佳

墨染めの枝の色濃く桜花咲くなぜこれほどに人は恋うるか
凧ちひろ

家々が余計なものと映るとき桜の声を私は知らない うめ
たなか

くぐもつた硝子の眼をした少年はラムネの泡と弾けて消え
た みさきゆう

なんだっけおもいだせないだじこと忘れられないつらい
おもいで もゆら

幸せは目に見えないはずなのになぜさわれて熱くて息をし
ている どこにでもドア

最終バスを見送りながら頬張る餃子の熱さよ Longroof

偶然に映った動画見つけたのたった三秒寝たままの君と
るばどーる

花束を散らせるほどの風のなか進めスーツのおじさん明日
へ 霧島あきら

手の平に収まる硬い温もりの 奥に無限に繋がる世界
Tomoko

闇の奥一番鶏と吠える犬しとしと雨音戸を叩く音 Take
バスチーユ陥落をおさめた写真が「Twitter」でバズっていた

よ Nichtraucherchen
感性と春風ともに吹きぬけてクリームコロッケかじらせる

二葉らむ
春眠の夢よ覚めるなこの恋は久方ぶりに釣り上げた鯉 み

くたん
三月も末になってふと気付く過ぎてしまった大切な日の事
Take

奥歯噛み耐えに耐えぬき人並みと流れ流れてドブ桜 Lawo
riyaman

過去からは逃れられぬと知った夜バスタブがふと狭く感じ
た 柘琴乃

墨色に染まった僕の傷心は闇夜を越えて夢見る丘へ
future

悲しみを背負う背中はずつくしい あなたの夜はいかがで
すか？ 在原涙

たすけての声も届かず過ぎる日々心震わすわずかな涙
future

祖母の言う鏡はつねに磨くよう今夜の化粧は死に顔みたい
汐射ハルカ

ウタマロで洗えば頑固に染み付いた「さみしい」もよく落
ちるでしょうか？ おから村

嫌な夢逃げ出し覚めた午前二時となりの寝息に身を寄せ眠
る 三角カド

◆ 詩

よく切れる刃物は痛くない
まるい言葉はひどくいたい
真夜中の河川橋から手を伸ばすとき
中天の月は
介錯を請けるや否や？（此糸むら咲）

更年期障害？花粉症もか？

低体温の熱中症で暑くて寒くて

キツイです。（まつもとともい）

◆ 作品評から

またわたしまたわたしまたわたし 藤井皐

「またわたし／またわたし／またわたし」と定型
で読んだが他の切り方もあるか。「真綿綿綿」を挟んで「ま
たわたし」のリフレイン。（月波与生）

英国のカップに浸す堇かな ことらう

く堇をカップに浸すつとつてもロマンチック（みくた
ん）

六回の表みたいなギターソロ たりりずむ

く野球だとして、六回って、まだ終盤でもなく、ちよつ
と中だるみしそうな微妙な感じで、しかも、「まだ」表つて
…個人的に好きなタイプの句です（笑）（まつりぺきん）

ぜんまいを干すあいみよんはみよんと呼ぶ 月波与生

く何となく分かります。ゼンマイのあの渦状の所を見る
と、あいみよんを「みよん」と呼びたくなると思います。

ちなみに、私が最近ハマっているあいみよんの歌は「強くなっちゃったんだ、ブルー」です。(一橋悠実)

プレミアムロールケーキのプレミアムみたいなやさしいこととして臙 此糸むら咲

「プレミアムロールケーキ」のプレミアム感はお手軽だけで勇氣は少し必要で。「臙」は頼りなさなんだろうか。

(月波与生)

黄水仙ピアニッシモしか無い校歌 しまねこくん

校歌は大声でがなる(フォルティッシモ)が基本だが黄水仙の校歌はピアニッシモ「しか無い」。何でやねんであるが、この何でやねんを見つけると川柳は成功に近づく。

(月波与生)

業務用下北沢をワゴン車で おかもとも

「業務用下北沢」がいい。ワゴン車(で運ぶのだから)業務用下北沢は人力で持てない程度には大きく、大型トラックで運ぶには小さすぎるのだろう。(月波与生)

その星はケーキ座のいちごになるのですいませんほらおいしそうです 落ちる星々

「ほらおいしそうです」の着地が面白い。「ケーキ座のいちご」の作り方もワザとらしくない。苺が嫌いな人には会ったことがない。(月波与生)

このあとで私の言う事忘れてねそして黙って私を忘れて何となく短歌

切な良過ぎます！(白田イチジク)